

【連載にあたって】

「鳥取のわらべ歌」の後編として、「鳥取の民話」を紹介いたします。以前、現地で語り手の方々から収録させていただきました。当欄では解説を主体とし、具体的な話はわらべ歌同様、鳥取県立博物館のホームページで語り手の音声をお聴きください。東部、中部、西部の順に原則掲載。収録時に語り手本人から発表の許可も得ており、学術上の必要もあるため、お名前を明記しました。ご了承ください。

# 鳥取の民話

1

収録・解説 酒井董美

語り手 大原寿美子さんに笠かぶしてあげにゃん（明治40年生まれ） あ」と、頭の雪をきれい

昭和60年8月15日収録

に取って、竹の鉢の笠を

## あらすじ

6体地蔵さんにみなかぶして、「さうさう」おぼあ、

昔、おじいさんとおば

もどった」。

あさんと貧しく暮らして

いた。竹の鉢を編んで、

かい」

おじいさんが「あれこれ

「何にも買わなんだけ

買っている」と出よられ

ど、お地蔵さんが頭の上

たら、道ばたに6体地蔵

に雪がいっぱい降って、

さんがおられて、ずっと

気の毒でこたえんもんだ

雪が降っていたので、「こ

けえ、お地蔵さんに、笠

りゃあ気の毒な、地蔵さ

かぶしていてもどった」

## 笠地蔵

(八頭郡智頭町波多)



イラスト・福本隆男

## 鳥取東部の山村にも息づく

「そりゃあよかった。いつ音が聞こえる。

さんが米を運んで来られてなあ、喜んで、喜んで。おじいさんとおばあさ

何にもものつてもおじいさ

「何じゃろうなあ、ある。

いっぱい米を運んで、んとは、ちよっとの間に

んいいが。笠かぶしてあ

の音は「

文関に置いてこしたら

げたらお地蔵さんが喜ば

「さーあ、何じゃろう。

ええ年を取ったとや。それ

れるわ」言つて。

あ「

やあ、「おじいさん、た

夜、寝とったげな。

「ええつらえつら

いたことじゃ。お地蔵

そうしたら、夜中に、

えつらえつら

さんがお米をいっぱいこ

へああ、えつらえつ

言つて、また、来られる。

と持ってきてこされた。

えつらえつら

見れば、6人のお地蔵 たいしたことじゃ」言つ

## 解説

このときの聞き手は福井県の高校教師だった佐飛鴻一さん、東京都の小学校教師の白尾幸子さん、その友人の主婦田中和子さん、そして筆者の4人だった。「本物の昔話の語りを知りたい」という白尾さんたちの要望を受けて、語り手の大原さん宅へ案内した。懐かしい思い出である。

この「笠地蔵」の話はよく知られているので、どなたも一度はお聞きになったことがあると思われる。鳥取県東部の山村にもこつして静かに息づいていたのである。

(元鳥取短期大学教授)

(水曜日に掲載)

鳥取県立博物館HP「鳥取の民話」コーナーで語り手の音声がかかります。